

第22回宇宙開発委員会(臨時会議)

議 事 次 第

1. 日時 昭和59年8月9日 (木)
午後2時～4時
2. 場所 宇宙開発委員会会議室
3. 議題 昭和60年度における宇宙開発関係経費の見積り方針について
4. 資料
委22-1 第21回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨(案)

委22-2 昭和60年度における宇宙開発関係経費の見積り方針(案)

第21回 宇宙開発委員会（定例会議）

議 事 要 旨 （案）

1. 日 時 昭和59年8月8日（水）
午後2時～4時

2. 場 所 宇宙開発委員会会議室

3. 議 題

- (1) 第一次材料実験テーマの第二次選定結果について
- (2) 第一部会の審議結果について
- (3) 静止気象衛星3号（GMS-3）の打上げ結果について

4. 資 料

- 委21-1 第20回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）
- 委21-2 第一次材料実験テーマの第二次選定結果について（報告）
- 委21-3 宇宙開発委員会第一部会報告書
- 委21-4 静止気象衛星3号（GMS-3）打上げ及び追跡管制結果の概要

5. 出 席 者

宇宙開発委員会委員長代理

“ 委員

“ “

“ “

説明者

宇宙開発委員会第一次材料実験

テーマ選定特別部会長

吉 識 雅 夫

斎 藤 成 文

井 上 啓次郎

大 塚 茂

斎 藤 進 六

宇宙開発委員会第一部会長

“ “ 衛星系分科会長

“ “ 輸送系分科会長

宇宙開発事業団理事

“ “

関係省庁職員等

科学技術庁研究調整局長

“ 長官官房審議官

文部省学術国際局審議官

通商産業省機械情報産業局次長

“ 工業技術院総務部長

運輸省大臣官房審議官

“ 気象庁総務部長

郵政省通信政策局次長

“ “ 宇宙通信開発課

建設省大臣官房技術審議官

文部省宇宙科学研究所管理部研究協力課

宇宙開発事業団計画管理部次長

“ “ 計画第1課

“ 衛星設計第2グループ総括開発部員

中 口 博

野 村 民 也

武 田 峻

竹 中 幸 男

船 川 謙 司

福 島 公 夫

三 浦 信

植 木 浩

（代理：三宅）

棚 橋 祐 治

（代理：佐藤）

矢 橋 有 彦

（代理：梅沢）

大 塚 秀 夫

（代理：大松）

新 谷 智 人

（代理：小野）

森 本 哲 夫

（代理：田中）

増 田 勝 彦

杉 山 好 信

（代理：太島）

秋 元 春 雄

寺 嶋 将 起

国 井 清 人

高比良 昭

事務局

科学技術庁研究調整局宇宙企画課長

" " 宇宙国際課長

" " 宇宙開発課長

清水 眞 金

森 忠 久

北 村 俊 男

他

6. 議 事

(1) 前回議事要旨の確認

第20回宇宙開発委員会(定例会議)議事要旨案(資料委21-1)が確認された。

(2) 第一次材料実験テーマの第二次選定結果について

斎藤進六第一次材料実験テーマ選定特別部会長より、資料21-2に基づき説明が行われ、以下の発言が行われたのち、第一次材料実験テーマ選定特別部会報告書が了承された。

斎藤： 現在、NASAとの間で交渉を行っているが、最後まで問題として残るのは、安全基準と電力の制限であるが、電力の問題については、実験回数などを調整することによって34テーマすべてが実施できるようにしたい。

(3) 第一部会の審議結果について

中口 博第一部会長より、第一部会の審議結果について、資料委21-3に基づき説明が行われた。その際、野村民也衛星系分科会長、武田 峻輸送系分科会長及び中口 博第一部会長より、以下の補足説明が行われた。

野村： 第13号科学衛星(MUSES-A)については、技術試験衛星の色彩が濃い衛星であり、様々な研究を幅広く行うために本衛星の開発に着手することは妥当であるとした。

GEOTAIL衛星については、日米協力のもとに行われる予定であり、現在、米国との間で協議を進めている旨説明があった。

地球資源衛星1号(ERS-1)については、関係機関の間で、今後緊密な連携を保ちつつ計画を進めることが必要である。

放送衛星については、放送衛星対策特別委員会の検討結果次第では、本報告書の見直しが必要となる可能性がある。

武田： H-I ロケットについては、既計画は順調に進んでおり、3号機及び4号機の開発に着手することは妥当だと判断した。

H-II ロケットについては、第二部会の審議結果も考慮し、検討した結果、昭和60年度から開発着手することは妥当だと判断した。

中口： 経団連等から、大型試験設備の整備、必要予算の確保、地球資源衛星の開発体制の整備、中期実行計画策定にむけての検討等の要望があった。

(4) 静止気象衛星3号(GMS-3)の打上げ結果について

宇宙開発事業団の竹中幸彦理事及び船川謙司理事より資料委21-4に基づき説明が行われた。

昭和60年度における宇宙開発関係経費の見積り方針(案)

昭和59年8月9日
宇宙開発委員会決定

昭和60年度における宇宙開発関係経費の見積りは、下記の方針に基づいて行う。

1. 開 発

- (1) 惑星探査に必要となる軌道の精密標定・制御・高効率データ伝送技術等の研究を行うとともに、その一環としての月スイング・バイ技術の試験を行うことを目的とする第13号科学衛星(MUSES-A)について、M-3SⅡロケットにより、昭和64年度に打ち上げることを目標に開発を行う。
- (2) 我が国の気象業務の改善及び気象衛星に関する技術の開発を進めることを目的とする静止気象衛星4号(GMS-4)について、H-Iロケット(3段式)により、昭和64年度に打ち上げることを目標に開発を行う。
- (3) 能動型観測技術の確立を図るとともに、資源探査を主目的に、国土調査、農林漁業、環境保全、防災、沿岸域監視等の観測を行うことを目的とする地球資源衛星1号(ERS-1)について、H-Iロケット(2段式)により、昭和65年度に打ち上げることを目標に開発を行う。

- (4) 重量約550kgの静止衛星打上げ能力を有するH-Iロケットについて、放送衛星3号-a(BS-3a)を昭和63年度に打ち上げることを目標にH-Iロケット(3段式)3号機の開発を行う。

また、静止気象衛星4号(GMS-4)を昭和64年度に打ち上げることを目標にH-Iロケット(3段式)4号機の開発を行う。

- (5) 1990年代における大型人工衛星の打上げ需要に対処するため、第1段及び第2段に液酸・液水エンジンを使用し、これに固体補助ロケット2基を加えた2トン程度の静止衛星打上げ能力を有するH-IIロケットについて、昭和66年度に試験機1号機を打ち上げることを目標に開発を行う。

2. 開発研究等

- (1) 日米協力として我が国が衛星の開発を担当し、米国がスペースシャトルを用いた打上げ等を担当して、地球の夜側に存在する長大な磁気圏尾部の構造とダイナミックスに関する観測研究を行うことを目的とするGEOTAIL衛星について開発研究を行う。
- (2) 米国が提唱している宇宙基地計画について、予備設計段階(フェーズB)の作業に参加するため、宇宙基地の構成部分の開発研究及びこれに係る要素技術の研究を行う。
また、宇宙基地の利用に関する研究を行う。

3. 研 究

- (1) 1990年代の通信需要に対処するため、実用通信衛星の開発に必要となるマルチビームアンテナ技術、サテライトスイッチ技術、アンテナ展開技術等の衛星通信技術等の開発を目的とする実験用通信衛星について所要の研究を行う。

(2) 将来の通信・放送需要の増大及び多様化に対処し、高度な衛星通信技術及び衛星放送技術に関する自主技術の確立を図るため、新しい周波数帯を利用したマルチビーム衛星通信技術等の開発を目的とした衛星搭載通信機器の研究を行う。

(3) ロケットや人工衛星が可視範囲にない時でも、データ送受信、追跡管制を行い得る技術を修得するため、データ中継・追跡管制衛星技術の研究を行う。

4. 関連する施策

(1) 人工衛星技術の開発に資するとともに、実利用に供することを目的とする人工衛星の開発に当たっては、総開発経費の軽減等により利用者機関の経費負担の軽減を図る。

(2) 昭和60年度に打上げが計画されている放送衛星2号-b(BS-2b)の打上げが万一失敗した場合に備え、利用者機関の立場に配慮しつつ適切な対応措置を講ずる。

5. その他

上記以外については、「宇宙開発計画」(昭和59年3月14日決定)を推進する。

なお、放送衛星2号-b(BS-2b)については、昭和60年度に打ち上げることを目標に、引き続き開発を進めることとするが、開発に当たっては、放送衛星2号-a(BS-2a)に生じた不具合に関する第四部会報告に指摘された対策を十分講ずるとともに、放送衛星対策特別委員会の検討結果が出次第、信頼性の確保等を図るため、必要な対策を講ずる。

また、放送衛星3号(BS-3)については、放送衛星2号(BS-2)の経験を踏まえ、信頼性が確保されるよう開発を進める。